

## 新しい人を着なさい

2022/06/05

3:12 ですから、あなたがたは神に選ばれた者、聖なる者、愛されている者として、深い慈愛の心、親切、謙遜、柔和、寛容を着なさい。3:13 互いに忍耐し合い、だれかがほかの人に不満を抱いたとしても、互いに赦し合いなさい。主があなたがたを赦してくださったように、あなたがたもそうしなさい。3:14 そして、これらすべての上に、愛を着けなさい。愛は結びの帯として完全です。3:15 キリストの平和が、あなたがたの心を支配するようにしなさい。そのために、あなたがたも召されて一つのからだとなったのです。また、感謝の心を持つ人になりなさい。3:16 キリストのことばが、あなたがたのうちに豊かに住むようにしなさい。知恵を尽くして互いに教え、忠告し合い、詩と賛美と霊の歌により、感謝をもって心から神に向かって歌いなさい。3:17 ことばであれ行いであれ、何かをするときには、主イエスによって父なる神に感謝し、すべてを主イエスの名において行いなさい。

今日も引き続き、クリスチャン生活について考えていきたいと思います。前回のコロサイ人への手紙のメッセージでは、使徒パウロはコロサイの人々にこの世の罪深いものを人生から全て消し去るようと呼びかけました。これは、私たちにとっても同じように、コロサイの人々にとっても難しいことであったと思われます。私たちがこの世のものとの心の罪深い欲望によって墮落していくのを見るのは、楽しいことではありません。また、罪深い行為と認識したものを取り除くことも容易ではありません。具体的な罪について延々と説明しなくても、私たちは皆、罪と闘い続けているというだけで十分なのです。使徒パウロは、私たちがやめるべきことを単純に列挙するだけではありませんでした。彼は、クリスチャンが自分の人生にもたらすよう努力すべき事柄を、別に挙げています。要するに、使徒パウロはコロサイの人々に彼らの人生を以前のような罪深いものでなく、使徒パウロが羅列したもので満たす必要があると言っているのです。

古い者を脱いだら新しいものを着なさいと言われるのは、何か詩的な感じがします。私たちは皆、新しくきれいな服を着ることを楽しみますが、自分にぴったりと合う新しい服を着ることは特別な喜びだと思えます。このような考え方をコロサイ人への手紙 3 章に当てはめると、パウロは、クリスチャンは古い人生の繕った衣服や罪にまみれた衣服を脱いで、自分をより美しくする真新しい衣服に着替えるべきだと言っているのです。私たちはこの衣替えによって自分の個性を失うことはありませんが、私たちのために死んでくださった主に敬意を表すのです。

しかし、脱いだり着たりしているうちに、「これは本当に価値があることなのだろうか」と思うようになりました。そして、その問いかけに対して、すぐにルカの福音書9章25節のイエスの言葉が脳裏に浮かびました。

ルカ9:25 人は、たとえ全世界を手に入れても、自分自身を失い、損じたら、何の益があるでしょうか。

この世の楽しみは、私たちの魂を手放すほど価値のあるものではありません。コロサイの人々が召されたように、私たちも召されているのです。古いものを捨て、新しいものを着るようと言われていたのです。この「着る」という命令は、コロサイ人への手紙3章1節にある「上にあるものを求めなさい」という命令と同じように考えることができると思います。これは一日や一生の間に成し遂げられることではありませんが、努力すべきことです。天の真理に目を向け、救い主に倣って知識を新たに、福音の真理を自分の人生に生かすよう努めましょう。

さて、コロサイ12-13節で、使徒パウロはいくつかの異なるものを身につけるように言っていますが、これはまとまったものとして見るべきものだと思います。本来、12-13節に見られるのは、私たちの主イエスに倣うこと、特にイエスの赦しに倣うということです。私たちの主イエス以上に慈愛に満ちた心を持った人がいたでしょうか。私たちの主イエスほど、心の傷ついた人、打ちひしがれている人に親切な人がいたでしょうか。自分の栄光の場所を捨てて、馬小屋で生まれ、二人の反逆者の間で十字架にかかられて死んだ人が他にいますでしょうか？自分を憎む人々のために命を捧げた人が他にいますでしょうか？反抗的な罪人を忍耐強く呼び戻す人が他にいますか？本当に私たちの主イエスは、私たちのためにこれらのことをすべてしてくださいました。誤解の無いように言うと、イエスは私たちが想像できる以上のことをされましたが、私たちにとって最も重要なことは、イエス様がまだこれらのことを行っておられるということです。私たちが置いていかれることはありません。イエスの赦しは今日も私たちに及んでいるのです。マタイによる福音書18章22節で、イエス様が弟子たちに「7回を70倍するまで赦しなさい」と言われたのは、イエス様が私たちがどれほど赦されるかを示そうとされたのです。イエスは弟子たちのために、赦しのイメージを広く輝かしいものにしていたのです。コロサイ3:12-13で、使徒パウロは、上にあるものに心に向け、自分たちの人生から世のものを取り除いた人たち、つまりすべてのクリスチャンは、救い主の品性を身に付け、互いに赦し合う必要があると言っているのです。

コロサイの人々は、神の民として、救い主に倣うように召されました。私たちも神の民として、同じように召されているのです。しかし大切なことですが、この赦しは言葉だけではできないことに注意してください。憐れみと謙遜の心から赦すように召されているのです。今日、教会の中に他の教会員から傷つけられた人がいると思いますか？ここにいる人たちの中にも、

他の人たちから傷つけられた人たちがいるのではないのでしょうか。罪深い人々がいるところでは、傷つけられることがあります。今日、私たちに本当に必要なことは、あなたを傷つけた人を赦したかどうかということです。私は、赦すことに忠実であるために自分が虐げられる必要はないと思いますが、少しの無礼や侮辱の場合には、赦そうとしていますか？もっと深刻な悪意のある行為の場合は、正義を求めながら、謙虚に、思いやりをもって歩むことができるでしょうか？天を見上げましょう。なぜなら、天の父の右に座しておられるのは、私たちに赦しをもたらすために死なれた方だからです。彼は私たちの罪のために砕かれたのです。その死によって、私たちは救われたのです。彼は自分の罪のために苦しんだわけではありません。自分の過ちのために辱められ、恥をかかされたわけではありません。主は、私たちの罪のために、そのすべてを行われたのです。私たちの主が私たちに赦したように、私たちも他人を赦すべきなのです。

互いに赦し合うようにという呼びかけの上に、パウロは愛を身につけるようにと命じています。コロサイ 14 節に「そして、これらすべての上に、愛を着けなさい。」とあります。一見、愛と赦しは結びつかないように見えますが、密接に関係しています。ヨハネによる福音書 3 章 16 節には、「神は、実に、そのひとり子をお与えになったほど世を愛された...」とあり、ローマ 5 章 8 節には、「しかし、私たちがまだ罪人であったとき、キリストが私たちのために死なれたことによって、神は私たちに対するご自分の愛を明らかにしておられます」と書かれています。イエスの罪人のための死は、神の示された世に対する愛の核心です。赦しが不可欠であると同様に、使徒パウロがコロサイの人々の眼前にもたらしたものは、愛がより根本的なものであるということだと思います。主が私たちのためにしてくださったことを思い起こすことが、他人が私たちが傷つけたときに赦すことにつながるとすれば、愛こそが私たちが赦そうとさせるものなのです。愛とは、「すべてのものを完全に調和して結びつける」ものなのです。愛と赦しとは、三位一体の神（父、子、聖霊）と人間との関係を定義するものである、という点を見逃さないでください。神は私たちが愛しています。永遠の御子は私たちのために死んでくださいました。聖霊は愛のうちに私たちが悔い改めさせ、御子を信じるように導かれます。私たちは御父に受け入れられ、義とされます。罪人を赦すことで示された神の愛のすべてが、私たちが互いに結びつけるはずで、使徒パウロは、愛は「すべてのものを完全に調和させる」と言っています。私たちが互いに愛し合うとき、私たちがキリストの弟子であることを世界と互いに示すのです。愛とは、自己犠牲的な奉仕や誠実さと考えることができ、他に共通点がなくても人々を結びつけるのです。それはおそらく、今日この世界では最も珍しいことでしょう。もし私たちが愛で結ばれているなら、私たちの生活と教会に調和を呼び込むこととなります。

そして、愛と赦しの土台に、パウロはさらに4つの命令を与えています。1つ目は、クリスチャンは「キリストの平和が、あなたがたの心を支配するようにしなさい。そのために、あなたがたも召されて一つのからだとなったのです。」というものです。これは、キリストの体における一致への呼びかけです。しかし、これは、互いに赦し合い、愛し合いなさいという呼びかけと非常に似ているように思います。結局のところ、私たちが互いに愛し合い、赦し合っているならば、それは一致につながるのではないのでしょうか？ある面では、そのような考え方は正しいのだと思います。すでに命じられていることを実行していれば、自然と互いに一致した生活を送ることができるのですが、ここにはもう少し深い意味があるように思われます。

「あなたがたは一つのからだに召されたのです」という言葉が重要です。クリスチャンはどのように一つの体に召されたのでしょうか。第一に、キリストの体における一致への召しがあります。確かに、私たちは皆、キリストの一つの体、つまり教会のメンバーとして召されています。私たちには、キリストの教会で果たすべき役割があります。しかし、私たちの多くは、世界的な教会に大きな影響を与えることはないでしょう。むしろ、私たちの存在は、地元の教会でより強く感じられることでしょう。では、私たちはどのように主イエスのからだの一部として召されてきたのでしょうか。これは非常に重要なテーマであり、さまざまな層があると思います。しかし、一般的には、キリストと福音を告白する上で一致するように召されていることを意味すると思います。私たちの信仰を構成するいくつかの教義は、私たちが保持し、告白し、他の人々に教えなければならないものです。そして、皆で集まる時には、熱心に信仰の真理を繰り返すべきです。

私たちは、キリストにあって一致するように召されています。私たちは、この世、肉、悪魔に対抗するために一人で召されているわけではありません。私たちの一致したイエスへの告白、互いに赦し合うこと、そして愛の中に、クリスチャンの信仰の実践があるのです。救いの深い業は神様のものですが、神様は、三位一体の神がふさわしい礼拝を受けられるように、これらのことを行うようにと私たちを召されたのです。私たちが互いに励まし合い、高め合い、力強く福音を伝えるために、神は私たちを一致するように召されたのです。メンバーを共食いさせている教会は卑しいです。なぜ、キリストが命がけで救った羊をすぐに犠牲にするのでしょうか。

使徒パウロが与えた次の命令は、「感謝しなさい」です。実は感謝することは、この箇所のちょっとした副題になっています。パウロは本文中で3回、何らかの形で「感謝」に触れています。これは、クリスチャン生活の本質が複雑であることを意味しています。クリスチャンは、赦すこと、愛すること、一致することを求められていますが、その奥底には、クリスチャンが感謝することを求められているのではないのでしょうか。

感謝することは、聖書の中でよく出てくることの一つです。聖書の著者たちは、感謝することはクリスチャンとして当然のことであると信じていたようです。パウロはここで、聖書の他の証し人と呼応しています。「感謝すること」は私たちの生活のリズムであるべきで、入浴や食事、その他私たちが繁栄するために必要なことと同じです。感謝することを怠ると、多くの弊害が心に生じます。その代表的な悪が、「苦い思い」という罪です。これは、私たちが主や周囲の人々に感謝しないとき、彼らの意図を信用しなかったり、疑ったりするようになるために起こります。神の善意に対する不信の火種は、私たちの信仰を損ないます。「信仰を損なう」というのは、神の存在を疑うようになるということではなく、困難な状況でも神に従える自信がなくなるということです。つまり、心の中に苦いものを溜め込むことで、自分の信仰の力を奪ってしまうのです。つまり、「感謝しなさい」という言葉は、クリスチャンの信仰に不可欠なものであり、私たちはそれをないがしろにし、傷つけているのです。

感謝することと並んで、使徒パウロは、「キリストのことばが、あなたがたのうちに豊かに住むようにしなさい。知恵を尽くして互いに教え、忠告し合い、詩と賛美と霊の歌により、感謝をもって心から神に向かって歌いなさい。」と語っています。「キリストの言葉を私たちのうちに豊かに住ませなさい」という命令から、面白いイメージが浮かんできました。豊かに住ませるということは、一つの場所に長く住み、根を下ろすということです。キリストのことばの中にいるクリスチャンの生活は、キリストの言葉を常に熟考し、適用しているものであるはずです。私の頭の中にあるイメージは、ティーバッグのようなものです。お湯の入ったカップにティーバッグを入れると、お湯に香りが出てきます。そして、お湯の中にティーバッグを長時間入れておくと、だんだんお茶の香りが強くなってきます。クリスチャンも同じです。キリストのことばに長く浸れば浸るほど、私たちの信仰は強くなります。感謝することと、キリストのことばに浸ることには、明確な関係があるのです。キリストの栄光の御業を認めている感謝する人は、自分の力で人生を考えようとはしません。キリストのことばに向かうのです。そして、イエスについての福音のもたらす豊かさを少し味わうだけではありません。彼らは御言葉の中に身を置くのです。神がご自分の所有のために民を買い取られ、信仰による恵みによって、私たちの主キリストと共に相続することができるという素晴らしい知らせです。

さて、私の説教にはあるパターンがあることにお気づきでしょうか。私はよく、私たちのために神がなさったことを大げさに話します。今日もそうしてきました。この箇所はたくさんの方の命令でいっぱいですが、私は神がその愛によってこのすべてを実現された多くの方法に注意を向けさせ続けています。それは正しいことだと思いますが、私たちがどれほど期待されているかということも考慮しなければなりません。私たちはいつも教えを聞き、受け取るわけではありません。私たちは、「知恵を尽くして互いに教え、忠告し合う」ようにと語られています。私たちは皆、人に教える前にもっと知らなければならない、もっと準備しなければならないと思

うのと同じように、使徒パウロは私たちが互いに教え、戒めるべきであると言っているのです。教えるとは、私たちがキリストの言葉、すなわち福音から得たものを他の人に説明することです。戒めるとは、罪や間違った教え、主イエスに対する不信仰の危険性について、他の人に警告することです。

興味深いことに、使徒パウロは、私たちが行うべき教えと戒めは知恵に満ちたものであるべきで、その知恵を「詩と賛美と霊の歌」によって伝えると述べています。私は、使徒パウロがコロサイの人々たちに互いに教え合う方法として歌を勧めたのには、いくつかの理由があると思います。第一に、歌は真理を伝えるのに最適な方法です。特に、今ほど読み書きが一般的でなかった時代には、詩篇や賛美歌などの歌を暗記することは実に簡単なことでした。次に、誰もが教えるのが上手なわけではありませんが、教えられた人は誰でも、教えられたことを繰り返すことができます。つまり、詩篇や霊歌では、神についての教えは、自分の教えや知識にあまり自信がない人でも伝えることができるのです。罪の危険性を語る詩篇を他の人に思い起こさせることで、他の人に罪の危険性を警告することができるのです。律法を黙想することについて述べている詩篇などを思い起こすことによって、キリストの言葉に浸ることがいかに重要であるかを他の人々に教えることができます。

つまり、神の言葉を備えていれば、教会の誰もが教え諭すことができるのですが、パウロは教会内の歌や詩篇を通して、互いに教え諭すことに特別な注意を向けているようです。私たちは、この毎週の集まりだけでなく、一週間を通して、詩篇で心を奮起することによって、互いに励まし、チャレンジし、支え合い、教え合うことができます。私は数週間前に、自分の教会で毎日詩篇を読むように勧めましたが、皆さんにも同じようにお勧めします。詩篇には人生のあらゆる苦悩が書かれており、多くの有益な教理が教えられています。特に、神は民を支え、逆境から救い出してくださるが、民は神の律法を忠実に守らなければならないことを教えています。詩篇で特に強調されているのは、神は世の中の弱い者、虐げられた者、忘れられた者に特別な配慮をされることです。もしあなたが将来への希望と今日を耐え抜く力に満ちた人生を送りたいのであれば、詩篇は日々の励ましとなることでしょう。ぜひ、毎日数篇の詩篇を読んでみてください。毎日2-3篇の詩篇を読むと、どんな状況においても神の誠実さをより大きく理解することができます。

私たちは、神がその契約を忠実に守っておられることを思い出す必要があります。私たちの心は、神から遠く離れて迷いがちです。同じように、私たちは自分のクリスチャンとしての生き方を定期的に吟味しなければなりません。日々、何があなたを導いているのでしょうか？コロサイ 3:1-2 で見たように、私たちは天のものを求めるべきですが、もし私たちを取り巻く世のものに心を奪われたら、どうしたらいいのでしょうか？コロサイ 5-12 節では、私たちの生活の

中にある地上のものを死滅させるようにとされています。しかし、私たちの中にある世のものがはっきり見えない場合はどうなるのでしょうか。この世でクリスチャンとして何をすべきか、最後のまとめの答えがコロサイ 17 節にあります。使徒パウロは、「ことばであれ行いであれ、何かをするときには、主イエスによって父なる神に感謝し、すべてを主イエスの名において行いなさい。」と語っています。

イエスの名によってすべてを行うことは、これまでコロサイ 12 節から 16 節を見て述べてきたことをまとめるのに最適な表現です。もしあなたがイエスの御名によってすべてを行おうとしているのなら、あなたに間違っただけをされている人々にどのように接するべきでしょうか。イエスがあなたにしてくださったように、忍耐と憐れみをもって彼らを赦すのではないのでしょうか。もし私たちが互いに愛し合い、一致して生きようとしなければならぬ、イエスの御名によってキリストの体の中でどのように互いに接すればよいのでしょうか？私たちがこれまで述べてきたことは、本当にすべてこの命令に要約されます。「すべてを主イエスの名において行いなさい。」 イエスの名には大きな力と権威があるので、イエスの名によって結びつけられている間、私たちは重荷を背負っているわけではありません。イエスの名によってすべてを行うことは、あなたが罪の人生を追求することを止めるはずでありません。なぜなら、イエスの名において意図的に罪を犯すことは考えにくいからです。一方、イエスの名によって物事を行うことによって、私たちはあらゆる状況にイエスを引き入れることになるのです。そして、私たちの主について一つ覚えておいていただきたいのは、主のなされることはすべて良いことであり、主のおられるところには祝福があるということです。私は、この世でのビジネス上の成功について話しているわけではありません。神の平和と恵みをこの世にもたらし、福音の光でこの世を照らすことです。

皆さんも自分の人生を吟味し、詩篇を読み返すことによって、お互いを鼓舞し合うことをお勧めします。すべての人間関係において、救い主に倣うことを強く勧めます。しかし、最も重要なこととして、私たちの主イエスの名によって、主イエスを通して父なる神に感謝を捧げながら、すべてのことを行うように努力することを祈ります。私たちの生活、そして願わくば私たちの世界は、イエスの御名を通して世界にもたらされる慈しみ、愛、そして平和によって変わるでしょう。